

令和4年第2回津島市総合教育会議 議事録

1. 日時

令和5年2月17日（金） 午後2時から午後3時15分まで

2. 場所

津島市役所 3階市長公室

3. 出席者

構成員：日比市長、浅井教育長、小出委員、猪飼委員、奥村委員、畑中委員

事務局：市長公室長、教育委員会事務局長、企画政策課長、学校教育課長、指導
主事、社会教育課長、担当職員1人

傍聴者：0人

4. 議事

- ① 令和5年度予算における主な事業について
- ② 体力向上に関する取組等について

5. 会議内容

1) あいさつ

（日比市長あいさつ）

- ・先日岸田総理より、新型コロナ対応として、今年の卒業式では、感染対策を講じていれば、合唱の時などを除き、児童・生徒や教職員はマスクを着用しないことを基本とする方針が表明された。
- ・新型コロナウイルス感染症の国内での発生から3年が経過し、引き続き感染拡大の防止に努める必要があるがポストコロナの動きも注視していく必要がある。
- ・トルコ・シリアで大きな地震が発生した。トルコ共和国とは領事館プロジェクトを通じて友好関係を築いており、総領事にお越しいただき早急に災害備蓄品の毛布2,000枚とブルーシートを救援物資として寄贈した。
- ・前回の会議では、「デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業について」と「津島Style① 生きる力を育む「津島っ子」大作戦についての2件を議題とした。今回の会議では、「令和5年度予算における主な事業について」と「体力向上に関する取組等について」の2件を議題としている。

- ・前回同様に、有意義かつ活発な意見交換をしていきたい。
(浅井教育長あいさつ)
- ・新型コロナウイルス感染症の収束にやっと出口が見えてきた。令和2年2月に緊急事態宣言が出てから丸3年かかった。平常の学校生活に少しずつ戻っていく。
- ・令和5年度の予算では、教育に手厚い予算となっている。市長が言われている「楽しく役に立つ」津島の教育、「誰一人として取り残さない」津島の教育、「きらりと光る」津島の教育を推進するよう考えている。
- ・コミュニティ・スクールを核とした地域と学校との連携・協働が随分と進んだ。コミュニティ・スクールは全ての小中学校で立ち上がった。
- ・プログラミング教育について、津島プログラミングプロジェクト(TPP)と子どもたちが命名した。
- ・領事館プロジェクトという国際交流活動については、8小学校中、既に7つが終了しており、2月24日に南小学校で実施するフィリピン共和国の領事館とのプロジェクトで終了となる。トルコとはこの交流を通じて築いた関係があり、トルコ領事館を通して今支援活動が行われている。
- ・子どもの体力向上を目指す取組として、これまでの総合的な子どもの基礎体力向上大作戦(SKIP)を発展させて、なわとび教室を行っている。
- ・津島の郷土愛、津島のプライドを育てる津島の達人ジュニア歴史検定・歴史選手権などの取組も来年度以降も考えていきたい。
- ・津島の教育行政に関し率直なご意見をいただき、今後の教育政策に少しでも反映できたらと考えているので、忌憚のない意見をお願いしたい。

2) 議題1 令和5年度予算における主な事業について 資料1・2

(日比市長)

- ・令和5年度予算における主な事業について事務局から説明する。

(学校教育課長)

- ・令和5年度の当初予算についてお話する上で、はじめに「令和5年度津島市子育て支援トータルプラン」について説明する。当初予算の中で子育て支援に関連する事業を取りまとめたもので、2月6日に行われた、臨時記者会見の際に発表した内容である。
- ・「子育てするなら津島」として、未来を担うこどもたちは、津島市の「宝」で、子どもの健やかな育成を図り、子育てをしやすい環境づくりを推進していくことは、大変重要である。「つしま成長戦略」の1つ目「子ども・子育て応援都市つしま」として、子どもが生まれる前から生み育てるまで、丸ごと応援

するため、子育て支援トータルプランとして、令和5年度新規13事業を含む27事業、約7億3,000万円の事業を実施する内容である。

- ・5つの子育て支援として、県内トップクラスの取組となる。その中で、教育委員会学校教育課の関係するものは、市立小学校・中学校の給食費の半額補助の実施である。市立小中学校給食費半額補助は県内の市では初となる。
- ・子育て支援トータルプランを妊娠期から乳幼児期、学齢期ごとに振り分けをした表を記載しており、先ほどの5つの子育て支援が上段にあり、下段はその他のこれまで行っている事業や新規事業を加えた計27事業である。そのうち、教育委員会の事業は、学齢期の給食費材料費物価高騰対策、小学校給食費半額補助、放課後子ども教室、中学校給食費半額補助、私立高等学校授業料補助である。
- ・給食費材料費物価高騰対策事業については、物価高騰により上昇している給食材料費について、保護者負担を増やすことなく、物価高騰分を市が負担し、必要な給食の質を確保するものである。今後も、引き続き物価が高騰しても、給食費の値上げ等で保護者の方の負担を増やさないということである。
- ・小学校給食費半額補助事業は、令和5年4月から小学校の給食費については、1食あたり270円の半額となる135円を市が補助し、1人当たり年間で約26,000円の負担軽減を見込んでいる。これまでは、市が15円の補助をして、保護者の方は255円を負担していた。
- ・放課後子ども教室推進事業は、市内全8小学校の施設を活用して放課後子ども教室を開設し、さまざまな体験・学習・交流を通じて、子どもたちが社会性や創造性を育む場を提供するものである。
- ・中学校給食費半額補助事業は、中学校の給食費は、1食あたり300円の半額となる150円を市が補助し、1人当たり年間で約27,000円の負担軽減を見込んでいる。これまでは市が15円の補助をして、保護者の方は285円を負担していた。
- ・私立高等学校授業料補助事業は、10月1日現在で私立高等学校、専修学校の高等課程及び一部の通信制に在学し、愛知県私立学校授業料軽減制度による決定通知を受けている方、またはそれに準ずる方などに、年額1万円の授業料等の補助を行うものである。対象者は330名ほどを見込んでいる。
- ・次は、教育委員会全体の令和5年度予算について、予算の概要の資料を使って説明する。令和4年4月に市長選挙を控えていたことから、令和4年度予算は、義務的な経費、継続的な経費及び年度当初からの執行が必要な経費を中心とする「骨格予算」として編成されていたので、予算科目によっては、対前年度比が大きな差になっている。

- ・教育委員会にかかる予算については、事務事業費 24 億 8,584 万 7 千円で、対前年比 158.4%となっている。
- ・学校教育課所管に係る予算は、17 億 2,961 万 6 千円で、対前年度比 8 億 5,084 万 6 千円で、対前年比では倍増となっています。
- ・主な事業、新規事業などについて、事務局費の事務管理経費にある新規の学校施設長寿命化計画策定委託料 292 万 6 千円は、平成 30 年度に策定した長寿命化計画は、平成 31 年度から 5 年で見直しをすることとしており、令和 6 年度以降の計画を見直すための費用である。
- ・学校教育指導費は、新規ではないが、2 年目の事業となる、子どもの体力向上事業報償費 144 万円は、なわとび教室の講師の方などへの報償費である。
- ・ロボット・ブロックプログラミング教育事業報償費は、今年度と同様にプログラミング授業を進める中で、大学教授の方に授業を見ていただき、指導助言をいただき取組の向上に繋げるものである。
- ・プログラミング教室事業 272 万円も、今年度と同様に外部講師の方によるプログラミング授業の実施に必要な費用である。
- ・地域学校協働本部事業補助金 162 万円は、地域での活動が広がっていることから、前年度より 1 校当たり 3 万円、9 校で 27 万円を増額しております。
- ・今年度、令和 4 年度に暁中学校学校運営協議会・暁中学校地域学校協働本部が、防災活動などの実績が評価されコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰を受賞している。
- ・国際理解教育事業 315 万 7 千円は、令和 4 年度は領事館交流プロジェクト関係を 6 月補正計上のため、40 万円ほど増額となっている。領事館交流プロジェクトについては、今年度から拡充して取り組んでいる愛知県内の 8 つの領事館と市内 8 小学校での交流事業で、令和 5 年度も引き続き実施していく。東小はペルー、西小がブラジル、南小がフィリピン、北小が韓国、神守小がカナダ、蛭間小がトルコ、高台寺小が中国、神島田小がアメリカの領事館と交流し、交流する国の文化を学び、日本との違いに気づき理解するなど、国際社会に飛び出し、活躍するきっかけになればと考えている。
- ・資料にはないが、人件費に関して、令和 5 年度から新たに、いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや、関係機関等との連携・調整を行うなど、多様な支援方法を用いて課題解決を図るためのスクールソーシャルワーカーを 1 人配置し、相談体制の充実を図る。
- ・小学校の学校管理費は 5 億 2,388 万 7 千円を計上しており、新規として神島田小学校屋内運動場修繕工事实施設計委託料 445 万 5 千円は、長寿命化計画

- に基づき、外壁の防水対策を行うための工事の実施設計を行うものである。
- ・次の新規として東小学校庇改修工事 1,508 万 9 千円は、東小校舎の庇が老朽化により剥がれ落ち、その改修を行うものである。現在は、応急処置として、庇の剥がれ落ちそうな箇所は叩き落とした後、ネットで覆い落下を防いでいる。
 - ・新規にはなっていないが、蛭間小屋内運動場長寿命化改修工事管理委託料 755 万 7 千円と蛭間小屋内運動場長寿命化工事 2 億 4,616 万円は、市として始めて学校施設の長寿命化改修に取り組む費用である。
 - ・ICT 支援委託料 844 万 8 千円は、ICT 支援員の配置に伴う費用である。今年度から取り組んでいる AI 機能を搭載した人型ロボット・ブロックを活用したプログラミング授業においても、授業内容の作成支援、授業の中で児童生徒への支援を行うなど、学校現場から ICT 支援員を配置してもらって助かっていると感謝の言葉を聞いている。
 - ・小学校の教育振興費 3,531 万 4 千円は、前年度から 370 万円ほど減額となっており、要・準要保護就学援助費が 370 万円ほど減となり、1,504 万 6 千円になっていることによる。
 - ・中学校の学校管理費は 5 億 394 万円を計上している。新規はないが、小学校と同様に神守中屋内運動場長寿命化工事 3 億 6,189 万円、工事管理委託料 906 万 4 千円で長寿命化改修に取り組みます。
 - ・中学校の教育振興費は 4,473 万 4 千円を計上しており、前年度より 250 万円ほど減となっている。主な要因は小学校と同様に、要・準要保護就学援助費の減額によるものである。
 - ・学校給食共同調理場費は 5 億 4,499 万 4 千円を計上しており、前年度から 1,000 万円ほど増額している。主な要因は、新規の、南小学校調理室屋上防水改修工事 711 万 3 千円は、既存の屋上防水シートが老朽化によりめくれ上がり、コンクリートが広範囲にむき出しになっており、雨漏りの危険もあるため屋上防水処置をするものである。
 - ・給食用賄材料費は、世界情勢、原油・物価高が見込まれており、物価高騰の影響を想定して前年度より増額し、2 億 9,119 万 1 千円を計上しています。先ほどの説明のとおり、物価高騰分の影響額は市が負担していきます。また、食材についてもできる限り、旬の食材を使うことで、価格の影響を下げ、できる限り手作り、手作り感のある調理にひと手間加えた、安心、安全な美味しい給食が子どもたちに食べてもらえるよう取り組んでいく。
 - ・歳出ではないが、小学校・中学校の給食費について、先ほど子育て支援トータルプランにもあったが、これまで給食費は 1 食あたり小学校 270 円、中学

校 300 円のところ、保護者負担を軽減するため、令和 5 年 4 月から市が半額補助し、1 食あたり小学校 135 円、中学校 150 円の保護者負担となる。影響額は 1 億 709 万円である。

- ・給食費の半額補助は 1 人あたり年間で 26,000 円から 27,000 円であり、保護者の方の経済的な負担を軽減することになる。また、その他の子育て世代への支援策により、「子育てするなら、つしま」が、口コミで広がり、浸透していき、魅力マシマシで「住んでみたい、住んでよかったまち つしま」になるといいと考えている。

(社会教育課長)

- ・令和 5 年度の社会教育課の予算案は、3 億 2,704 万 5 千円を計上しており、令和 4 年度の当初予算と比較すると 5,105 万 4 千円の増額、前年度比 18.5% の増額である。
- ・主な事業内容としては、社会教育総務費 6,000 万 7 千円は、社会教育・文化振興事業、文化財保護事務、放課後子ども教室推進事業、事務管理経費に必要な事業費を予算計上している。
- ・社会教育・文化振興事業は、市民大学講座などの生涯学習事業、文化祭美術展等の文化振興事業のほか、青少年関連事業などに 296 万 3 千円の予算を計上している。
- ・文化財保護事務は、堀田家住宅や氷室作太夫家住居の管理費のほか、市内の指定文化財に対する補助金を始め文化財保護に関する事務費として、3,507 万 3 千円を計上している。新規事業としては、秋祭調査委託料 400 万円、案内板整備工事に伴う価格調査委託料と整備工事で計 1,635 万 7 千円、文化財修理費補助金 466 万 3 千円は、尾張津島天王祭祭礼用具、秋祭の山車、石採祭車の修理事業に対する補助金である。
- ・放課後子ども教室推進事業は 1,799 万円の予算を計上している。令和 4 年度同様、グループに分け、各グループ週 1 日から 2 日の参加を予定している。器具購入費 35 万円は、令和 3 年度、4 年度に各教室に配備した ICT 機器（令和 3 年度：パソコンやプロジェクター、令和 4 年度：プログラミング学習教材のブロックやタブレット）等を保管する引き違い書庫（鍵つき）を購入する経費である。
- ・事務管理経費 398 万 1 千円は親愛集会所、永楽集会所の指定管理委託料 181 万 7 千円、津島市 PTA 連合会運営助成金 52 万 6 千円など社会教育関係団体への補助金のほか、社会教育、生涯学習の振興に必要な経費を予算計上している。
- ・図書館費 1 億 1,030 万 1 千円の主なものは、指定管理委託料 8,700 万 4 千

- 円、電子図書館のシステム使用料 66 万円、図書購入費 1,017 万 5 千円のほか、雑誌や児童図書を消耗品費に予算計上している。このうち、電子図書館の経費は、システム委託料 66 万円、電子図書購入費 250 万 3 千円である。
- ・公民館費 346 万 1 千円は、公民館教室・講座の開催に伴う講師謝礼 54 万円のほか、施設の維持管理費用である。例年と比べて光熱水費の高騰が見込まれるので 38 万円、公共施設等修繕料 21 万 5 千円（階段手すり片側の増設）が増額となっている。
 - ・生涯学習センター費 4,579 万 7 千円は、施設の維持管理、運営費用である。例年と比べて、光熱水費が大幅増、公共施設等修繕料が増額となっている。
 - ・保健体育総務費 1,832 万円は、各種大会等運営委託料 770 万 7 千円、事務管理経費 1,061 万 3 千円を計上している。各種大会等運営事業は各種スポーツ大会やスポーツ教室を実施に必要な事業費で、そのうち、神野大地選手のランニング教室の実施に伴う経費は 108 万 5 千円である。
 - ・事務管理経費の主なものはスポーツ協会補助金 897 万円、スポーツ少年団補助金 26 万円などスポーツ団体への補助金などスポーツ振興に係る経費を予算計上している。
 - ・体育施設費 8,915 万 9 千円の主なものは、教育・体育施設及び都市公園指定管理委託料 8,300 万円である。

(日比市長)

- ・今回 2 月 6 日に臨時記者会見した。子育て支援トータルプランについて補足説明する。この内容を聞いた人が、「どうしてこれだけの充実した内容ができるのか。」とびっくりしていた。
- ・新聞にも載っているのを見ていただきたい。これだけのことを今年度予算でやる市町村は恐らくない。徹底した行財政改革を行い、8 年間で 73 億円の効果があった。貯金にあたる財政調整基金は、8 年前から比べると 16 億円から 39 億 6 千万円になり、愛知県下 37 市中 7 番目である。市民 1 人当たりになると 6 万 5 千円となる。財務体質が変わったということである。
- ・対して借金にあたる市債残高は、ピーク時は 219 億円あったのが、今は愛知県下で 3 番目に少なく、37 市中 35 位である。この間の 4 年間で、小中学校のエアコン設置、トイレの洋式化、1 人 1 台タブレットの導入といった 22 億 5 千万円の投資を実施しての状況である。
- ・次は子育てトータルプランである。第 2 子以降の保育料の完全無料化は県内初である。高収入の方でも、1 人当たり最大 63 万円かかる保育料が全て無料は初。小中学校の給食費半額補助も県内市では初、保育所の副食費半額は他の市町にあるが 0 歳児を対象とした無料の「選べる定期便」など、県内トッ

プラスとなる5つの子育て支援を含む子育て支援トータルプランを来年度からスタートさせる。

- ・また、まちづくりとして、いよいよ天王川公園を皮切りに、正面玄関である津島駅、北の玄関である青塚駅など、押し進めていく。こういった成長戦略に20億円を投資していく。昨年8月、名古屋市主催の名古屋市近隣市町村長懇談会において、リニア新幹線開通後に津島市はこのようにまちづくりを進めていくということを、私が講演を行った。
- ・学童保育については、津島市は学童保育料が1万4~5千円であるが、他市は4~5千円でやっているという話がある。しかし、津島市は8年前から比べると、学童保育の委託料を3倍に増やしており、1億円を超える額を支出して支援している。児童1人当たりになると28万円で、県内54市町村中2番目に多い額である。県平均の2倍の額を支払っているのに保育料が高いというのは、運用の仕方が違うということである。
- ・このように財務体質が整ったので、今後は子育てとまちづくりを両輪でやっていく。この8年間は大変厳しい状況であったが、企業誘致などによって財務体質が変わった。これから津島市は子育てとまちづくりに力を入れていく。

(奥村委員)

- ・新規事業も着々と進んできており、予算も教育委員会に多く向けられている。子育てに関する新規事業が増えて、今までは老人のまちというイメージが強かったが、子どもの方に向けていただいて非常に感謝している。

(畑中委員)

- ・子育てをしている親の立場としては、色々な補助をしていただいて大変ありがたい。現在の物価高において、給食費の補助は非常に大きい。生まれてくる子どもたちが増え、一度転出したとしても、将来津島市に戻ってきてくれるとよいと思う。

(猪飼委員)

- ・津島市特別職報酬等審議会の委員をしており、市の財政状態や構造的に抱えていた問題が非常に多かったが、ここまで改善してくるのはすごい。財政調整基金は、何年か前は数億だったと思うが、ここまで増えたのは驚きである。もうひとつ驚いたのは、財務体質がこんなに変わったということである。民間経営ではなかなかできないので、すごいと思う。
- ・予算に関する説明に関して、私も施設運営しているのでよくわかるのだが、施設が老朽化すると見た目も悪くなり、後になればなるほど費用がかかる。神守中体育館の改修にも多額の費用がかかる。政策に関しては本当に素晴ら

しい。新聞で子育て支援トータルプランを拝見してびっくりした。県内初の事業も多いし、「マシマシ！」という言葉もいい。何から出てきたのか。

(市長)

- ・職員が考えた。「〇〇マシマシ！」の「〇〇」の部分を変えて、「教育マシマシ!」、「健康マシマシ!」など、のぼりも作った。

(猪飼委員)

- ・市長公室の入口に展示してあった甲冑も素晴らしい。社会教育課職員の手作りとのことで、見たらびっくりする。色々ないいことがちょうどこの時期に出てきている。是非いろいろマスコミ等に取り上げてもらってアピールできるといい。

(日比市長)

- ・施設の老朽化は前々から大きな問題であるのは重々承知していたが、多額の費用が必要となるのでなかなか着手できなかった。今回は令和4年度で蛭間小・神守中の体育館の実施設計をした。物価高騰で工事費が1億円ずつ値上がりし、神守中が3億7千万円、蛭間小が2億5千万円となった。物価高騰がしばらく続くので、こういった状況であってもやるしかない。令和5年度は神島田小体育館の改修の実施設計も行う。1年で2校の工事を実施するのは大変だが、神守中はあれだけ鉄骨が錆びているので実施すると決断した。鉄骨が外にむき出しになっている設計は恰好良かったが、色々な弊害がある。この際、スロープを付けてバリアフリーに近い形にする。東小も庇が落下したまま放置してあったので直すことにした。

(小出委員)

- ・元気で歯切れがいい市長の話のを伺った。聞いていて気持ちがいい。数字の裏打ちがあつてのことだろう。逆に言えば、裏打ちがなければ、何もできない。職員もそれを実感しているから、新しいことを次々とやってみようという気になったのだと思う。教育委員会も今までやりたいことを抑えられていた。それを出してもいいという雰囲気になってきたから、若い人たちの意見がどんどん出てくる。そうすると益々生き生きしてくる。
- ・教育委員会を見ていると、子どもたちに対してとても多くの費用をかけてもらっている。そうなると学校は、これだけのお金をもらっているのだから、頑張らないといけないという気持ちが自然に出てくる。お金は使い方でもどのようにも変わる。今までやりたいことを辛抱していたと思う。それを使うときに今来たのなら、有効に使って、市民や子どもが喜ぶことをやってもらうといいまちになる。

(日比市長)

- ・事業の選択が必要である。ご存じのように、東公園の屋外・屋内プールも老朽化で今休止している。これを修理しようとするれば、2億～5億かかるという話もある。生涯学習センターの大ホールも休止している。これを元に戻すには数億かかる。できないことはいくつかあり、全部はできない。天王川公園の中央公民館を解体、更地にして民間の活力を導入することにした。更地にするのに5千万円以上かかったが、民間の投資を呼び込むことができた。休止しているところもいくつかあり、全部をやるのは難しいので、今後は天王川公園を一つのモデルにしたい。スターバックスが来るということだけが話題になっているが、実は大和リースに2億2,400万円の投資をしていただく。駐車場も全て整備してもらおう。民間の投資とアイデアを東公園でも活用できるよう、民間に目を向けてもらわないといけない。税金を余り使わずにまちづくりを進めるという新しい手法である。その代わり、上手く発信しないとなかなか民間は手を挙げない。東公園も民間活力の活用に向けて調査している。東公園は名古屋から30分圏内の唯一の10ヘクタール以上あるスポーツ公園である。この価値を民間にアピールし、そこに投資をしてもらおう。天王川公園が上手くいけば、市民にわかってもらえるのではないかと思う。令和5年度はまちの再生元年にする。ただし、全ては出来ないのでは、我慢するところも出てくることはご承知おきいただきたい。

(浅井教育長)

- ・教育委員の皆さんから意見が出たように、学校教育・社会教育にたくさんの予算を計上しているので、これを活かして「きらりと光る」津島の教育を目指していく。津島の教育がいいから津島に住むというような感覚になってもらう。
- ・プログラミング教育、給食費半額補助、後で出てくる体力作りの取組、体育館もこの時期に改築していく、社会教育関連の放課後子ども教室など、他の自治体にはないものをより充実させてきらりきらりと光らせていきたい。
- ・その中でもう一つ考えていかなければならない視点は防災であり、もっと重要視していかなければならない。トルコ・シリアの地震があったが、防災のことをもっと真剣に考えなければならぬ。これまでも考えてはいるけれど、まだ他人事になっている。何とか自分たちのものにしていかなければいけない。ないものねだりばかりでいけないが、「きらりと光る」教育を進めていきたいと思っている。

(日比市長)

- ・木曾三川下流部広域避難実現プロジェクトの会議が海津市であり、広域避難について東京大学の片田先生の講演があったが、広域避難の重要性を切々に

訴えてみえた。東京の 250 万人を台風が来る 72 時間前に広域避難させるといふ話であり、笑い話のようだが、それを考えていないと厳しいことが起きるといふ話である。東京だけでなく、大阪・名古屋エリアも同じである。そんな話を切実に訴えてみえた。残念ながら関心の低い人が多い中で、広域避難と言っても非常に難しい。片田先生は、東日本大震災における「釜石の奇跡」の釜石市で小中学生を指導されていた人である。7・8 年前から防災教育によって避難の必要性を伝え、震災が起きた際に防災教育で学んだことを実行に移したので、釜石市内の児童・生徒の多くが無事であった。その片田先生が、無関心な人に必要性を認識してもらうのは難しいと言っていた。それでも発信していかなければならない。中学生なら助ける側に回れるのではないかということで津島市でも訓練をしている。小さい頃から防災に少しでも意識を持ってもらうことしか社会を変えることはできないのではないかと思っている。

3) 議題 2 体力向上に関する取組等について 資料 3・4

(日比市長)

- ・体力向上に関する取組等について事務局から説明する。

(学校教育課長)

- ・体力向上の取組につきましては、市ではこれまで「SKIP」と銘打って、各学校に、のぼり旗を設置して意欲の向上を図ること、マラソン大会、なわとび大会や学校独自のサーキットトレーニングも行ってきたが、なかなか数値として体力向上につながっていると見える状況ではなかった。
- ・そういった中、市の若手職員の提案事業から始まり、国の地方創生推進交付金の活用を見込んだ「津島 Style①生きる力を育む「津島っ子」大作戦」として子どもの体力向上の事業計画を作成して進めてきたが、交付金は不採択という結果になった。
- ・しかしながら、体力向上事業は津島の未来を担う子どもたちに必要な事業であることから、一部内容を縮小して取組むこととなり、なわとび教室と教員、指導者向けのサーキットトレーニング、体力向上の研修会の実施、中学生向けの講演会を実施してきた。講演会では、津島市出身で箱根駅伝では 3 代目山の神と言われた、神野大地選手に 4 中学校でご講演いただいた。
- ・今回は、体力向上の事業のうち、なわとび教室について中間報告を行う。今回の事業の目的は、学習指導要領で「智・徳・体」のバランスの取れた人間形成を目指し、子どもたちが地域の未来の担い手として健康と体力をつけることは正しく生き抜くための必要な力であり、郷土を愛し人権を尊重し、健

康でたくましい津島っ子を育てるものということで進めている。今回市内の全ての小中学校の児童生徒約 4,200 名を対象とし、令和 4 年 10 月から令和 5 年 2 月までで 1 人につき約 3 回参加した。日本社団法人 なわとびアカデミーなわとびスクールの粕尾さんと森口さんに講師として活躍いただいた。

(指導主事)

- ・講師の粕尾さんはシルクドソレイユで活躍した方である。森口さんはギネス世界記録保持者で、7 重跳びが 1 回、6 重跳びが 4 回連続成功、5 重跳びが連続 31 回という記録であり、YouTube で視聴できる。そのような方が蟹江町にお住まいだということで、講師をお願いした。3 年間を見越した体力作りのひとつである。児童・生徒全員になわとびを配布し、有効的に活用している。昼休み時間に渡り廊下などでもなわとびを行っている子どももいる状況である。過去に持久走大会を開催している小学校が何校かあったが、持久走大会では命の危険がある場合がある。なわとびなら途中で体調が悪くなくても止めることができるので、危険がないということもある。なわとびを続けることで、脳にもいい影響を与えている。
- ・小学校での事例を紹介する。各学年 3 回のなわとび教室を実施した。市内 8 小学校を 80 クラスに分けて延べ 240 時間で 2 人の講師にきていただいた。そのうちの 60~70 回の授業に私も参加した。低学年・中学年・高学年と学年に合わせて複雑な動きもしながら指導を受けている。
- ・中学生については、小学校 5・6 年の内容に準じて実施しており、2 月 17 日が最終日となる。
- ・中間報告をいただいているので、そこからピックアップして紹介する。子どもたちが同じなわとびを使って、無邪気に一生懸命取り組む姿を見て、先生方もやりやすいという意見があり、先生たちのモチベーションも違う。活動時間が確保されているので、体力向上につながっているという意見もある。指導してもらっている講師の先生が有名だと話をすると、休み時間に子どもたちがペンと色紙を持ってきてサインをねだることもあったようである。学習指導要領の中で、遊びを自分たちで作るということが一つの大きなテーマになっている中で、誰が最後までとび続けるかで競争をしたりする姿も見られた。何か運動を与えられた時に自分たちで工夫して楽しく取り組むということ。これがなわとびで学ぶことができたのではないか。講師の先生が、一緒に跳んでくれると子どもたちは喜んで盛り上がっていた。縄を使いながらポーズをしたり、縄を腕に巻く動作も教えてもらった。先生方も指導力の向上につながったと思う。
- ・今年度は 3 回の授業をやっていたいただいたが、来年度は 2 回分となる 144 万円

を予算計上している。

- ・その中で、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、全国に比べて愛知県は低く、津島市も差があることが如実に出ている。これを契機に体力を上げていきたいと思っている。
- ・サーキットトレーニングについても、愛知教育大学の鈴木准教授を講師に迎えて実施する。市の体育主任会においても、体力づくりの取組について色々ご指導いただいている。
- ・市の財務体質が変わったとの話があったが、体育の方も体質を変えていかなければ、なかなか体力向上につながらない。これを機に体力向上を目指していきたい。

(学校教育課長)

- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、調査の実施時期は、令和4年5月であるため、なわとび教室を受ける前に実施されたものである。
- ・小学5年生男女の体格の集計では、全国、愛知県とほとんど差はない状況である。
- ・小学5年男子の実技集計では、ほとんどの種目で全国、愛知県の数値を下回っているが、一部は全国を上回る結果であった。
- ・小学5年女子の実技集計では、こちらもほとんどの種目で全国、愛知県の数値を下回っている。
- ・中学2年生男女の体格の集計では、男子・女子共に身長の数値が少し下回っており、体重も女子が少し下回っている。
- ・中学2年男子の実技集計の内容では、すべての種目で全国、愛知県の数値を下回っており、特に持久走・50m走は低い数値となっている。
- ・中学2年女子の実技集計の内容では、ほとんどの種目で全国、愛知県の数値を下回っており、特に持久走・50m走は低い。
- ・こちらのほとんどが全国、愛知県より下回っている。やはり持久走や50m走が下回っている状況である。各学校の今年度のSKIP(体力向上の取組)を踏まえ、次年度に向けての取組を行っていく予定である。
- ・今年度の全国体力・運動能力等調査の結果を、ゼロからのスタートとして、今年度後半からのなわとび教室が、継続して体を動かすこと、体力向上につながり、次年度の体力・運動能力等調査の数値結果のアップにつながることを期待しているところである。

(小出委員)

- ・なわとび教室の講師が著名な方である。私たちは知らないが、児童・生徒に

とっては非常に素晴らしい人ではないかと思う。この時代にこの年代で日本の最高峰の人から指導を受けるのは、子どもたちにとって素晴らしいこと。そこから何かが生まれる気がする。今は結果を最優先に考えることが多いが、まずはなわとびが面白いな、運動が楽しいな、そんなことを体験できる講師だという気がする。これから継続的に学校で取組み、立派な講師を津島に招いたことが、子どもたちにとって幸せにつながると思う。

(猪飼委員)

- ・資料を改めて見ると、例えば小学校5年男女や中学校2年男子では肥満度は全国よりも高い。また、体力面では、小学校5年男女、中学校2年男女ともに全国よりも低い。
- ・運動の一番の基本となる「走る・投げる・跳ぶ」の中で、一つの切り口としてなわとびを選んだことは素晴らしいと思う。これが色々な形で広がっていけば、体力向上の1つになるのではないかと思う。民間と連携して地域づくりを行っているという話があったが、同じように上手く連携していけばいい。そういう指針をひとつ投げかけてもらえば、民間から色々な発想が出てくるのではないかという気がする。

(畑中委員)

- ・コロナ禍において、外に出る機会や運動する機会も減っている中で、体力が落ちているのは、ある程度仕方がないと思う。なわとびは自宅でもできるし1人でもできる身近な運動だと思う。子どもたちの体力向上につながると思う。

(奥村委員)

- ・有名な方を呼ぶとインパクトが強いので、子どもたちにやる気を起こさせ、モチベーションをあげることににつながるのでもいいことだと思う。今の子どもたちは色々な情報を知っている。神野大地選手に関してもとても有名なので、そういった有名な方を上手に使うと子どもたちもやる気になると思う。年ごとにテーマを変えて、なんとか津島の子どもたちの体力を向上させてほしい。

(浅井教育長)

- ・なわとびは、平野指導主事を中心に進めていただいた。私も何度か見させていただいたが、子どもたちは本当に一生懸命。1年生が二重跳びに挑戦する姿を見て感動した。
- ・前に市長と話をしたが、なわとびは基礎体力をつけるのに非常にいいスポーツである。色々な部活動で冬場に長縄や二重跳びなどのなわとびをよく練習する。本当にいいスポーツに取り組んでいるので、来年の体力テストが少し

楽しみである。体力テストについては、県や尾張の教育長会でも話題に出たが、この数字は愛知県の学校にとって屈辱的な事である。学校数＝母数が非常に多い中でのデータで、学校数が少ない地区の学校と比べられたり、条件が全然違う。愛知県はほとんど全ての学校が取組んでいるが、ある県は選ばれた学校しかやっていない。それを全国で比べたらおかしいのではないかと意見が出ている。負け惜しみではなく、本当の事である。また、愛知県は5、6月にデータを取るが、県によっては時期をずらしているケースもある。全国学力学習調査のように、結果がいい県は過去問をやっているのと同じあるが、結果の数字を見ると非常に苦しいものである。県によって取組の状況は違うが、それでも愛知県や津島市が悪いことは事実である。なわとびを機会に体力づくりをしっかりとやってもらいたい。平野指導主事が素晴らしかったのは、自らなわとび名人になるのではないかというくらいに、学校が終わってからずっと練習していただいた。

(日比市長)

- ・けん玉も連鎖してすごく広がったが、あんなイメージになるといいと思っている。なわとびも技がいろいろあるので、練習するとランクが上がっていく。技ができるようになったらシールを貼って児童・生徒同士を競わせるなど、上手くやれる気がする。足に振動を与えると骨粗しょう症が予防できると言われている。小さい子でも骨粗しょう症が多い。トータル的に縄跳びは優れたものだと思っている。上手にみんなで上達しようという雰囲気ができるのではないかと思う。

4) その他

(企画政策課長)

- ・次回の総合教育会議については、日程が決定次第、教育委員会を通じて連絡する。